

帝国主義の本拠地革命を粉砕し全世界の帝国主義を打倒せよ！　スターリン主義との国際党派闘争を組織し、世界プロレタリア革命—世界プロ独立・共産主義を掲げる世界唯一の党が国際普遍戦争の最前線に躍進せよ！

## 盧泰愚来日を阻止せよ

...P2~3

## 新たな学生運動の建設を

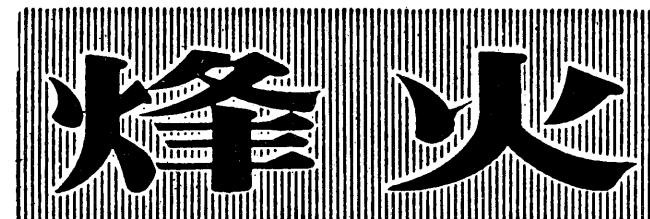
...P8~10

◆ニカラグア選挙の示すもの...P4~5

◆日系企業と闘う韓国労働者...P6~7

今号の内容

1990年  
4月1日  
第417号  
編集発行人 高木一夫  
一部 200円



NOROSH-

## 共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市北区本庄西2-8-19

明豊ビル401号 大労協内

TEL.(06)371-3706

○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫

○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫



## 全労協が国労支援の行動

上▼日比谷野音で開かれた決起集会(3月16日)  
下▼東京国鉄清算事業団前での抗議行動(同日)

# 国労の闘争を防衛せよ

四月一日でJRは発足から丸三年を迎えた。この日は国や清算事業団が、清算事業団の労働者に就職先を斡旋することなどを想定した「再就職促進特別措置法」が期限切れる日でもあった。三年前、国鉄は広範な労働者人民の反対と抵抗の中で分割・民営化された。そして三年後、再び人民の怒号の中で八〇〇人の解雇強行を迎えた。

清算事業団の労働者は三年間、筆舌に尽くしがたい苦惱の中でたたかい続けた。組合員の家族も街頭に立ち、雇用確保を叫び続けてきた。「JRは不当労働行為をやめ、ただちに正式雇用を行え」という地労委での救済命令が次々と出された。しかしJR側はこれに抵抗し、「雇用関係なし」という態度を崩さず、係争は中労委に持ち越された。そして一方では総評や社会党を仲介にして国労に対し、全労協の組織方針を変更させることを条件に「和解」解決を要求し続けてきた。

分割・民営化にあたって「一人も路頭に迷わせない」と当時の中曾根政権は公約していた。さらに衆参両院でも「採用にあたっては本人の希望を尊重し、所属労組による差別は行わないこと」という付帯決議が採択されている。JRの解雇通告はこうした決定を政府自らが踏みにじるものであった。一連の採用差別が国労をねらい打ちにしたものであることは明らかであった。目的は国労つぶしにあった。国労は戦後の日本の労働運動の中で原則的で戦闘的な労働組合の位置を保持してきた。日帝は労働戦線の再編にあたって、こうした労働組合の存在を容認しなかつた。戦闘的労働組合を完全に解体し、「連合」に一本化していくのが、今日の産業報国会化の中心的攻撃である。

国労にかけられた攻撃は、ひとり国労のみにかけられたものではない。それは國家的不正当労働行為であるとともに、日帝からの全労働者への挑戦もある。すべての戦闘的労働者はこの挑戦をうけて立ち、国労のたたかいを防衛し、勝利をめざしてたたかいぬこう！

清算事業団闘争勝利

# 盧泰愚来日を阻止しよう

## 日韓反革命同盟の形成狙う

韓国大統領の盧泰愚が、いよいよ来日しようとしている。およそ一〇年前の光州での人民蜂起を二千名以上もの虐殺で血の海に沈めた前全斗煥軍事独裁の副官であり、今も労働運動、学生運動、そして「民族民主運動」の活動家を千名前後も獄中に閉じこめ続けている張本人が盧泰愚である。日本プロレタリアート人民は、この盧泰愚の来日を韓国プロレタリアート人民との国際主義的連帯にかけて決して許してはならない。

### ■進行する来日計画

盧泰愚の来日は八八年の一月に計画されたが、これは昭和天皇ヒロヒトが重体となつたことから延期された。そして昨年の五月にも来日計画は再び浮上したが、これもまたリクルート疑惑・消費税の問題から日本では竹下が退陣し、盧泰愚も国内での労働者人民の激しいたたかいにみまわれて対応に追われるという日韓双方の政局の混沌によって中止を余儀なくされたのであった。

そしていま三度目の盧泰愚来日計画が進められている。このかん世界は大きく動いた。とくに東欧・ソ連の民主化運動とスターリン主義支配の崩壊、ベルリンの壁の崩壊と東西ドイツの統一問題の浮上という事態が朝鮮半島とアジアにどう波及するのか、これが韓国や日本で大きな注目を集めている。今回の盧泰愚来日では、日韓支配階級がどういった朝鮮半島政策やアジア政策を合意するのかが一つの大きな焦点となる。

また盧泰愚来日をひかえて、在日韓国・朝鮮人「三世」の協定永住権が未確立となっている問題も大きくクローズアップされてきている。

一九六五年に締結された日韓法的地位協定では在日韓国人の「二世」までに永住権を与えるが、「三世」以降は定められてなく、九一年の一月一六日までに協議できるとされている。

### ■来日の三つの狙い

盧泰愚の来日でもくろまれていていることは、大きいくらい三つある。

第一には、アジア太平洋地域において、日韓ブルジョアジーがアジア・第三世界に対する支配を強化するために侵略反革命同盟の形成へと踏み出することにある。昨年、盧泰愚来日計画が発表された時、日本の外務省はこれを、①日韓関係の眞の意味での出発点②グローバルな日韓



結成された韓国の全労協(1月22日・水原)

関係確立の契機と位置づけ、アジア太平洋地域での対等なパートナーシップをめざすと表明した。つまり日帝はアジア太平洋地域において、韓国ブルジョアジーと共同した経済的・政治的な軍事的な霸権を築こうというのだ。具體的にいえば、経済面では日帝は韓国（およびNIES）を同伴者とした「アジア太平洋経済圏」の構築を計画している。それは米帝・EC諸帝との市場争奪戦の激化を背景に、米加共同市場、EC統合に対抗した日韓ブルジョアジーの生き残り戦略である。そして政治・軍事的には、米帝の同盟戦略（責任分担論）のもとで進行するアジアにおける米軍の削減を補完しつつ、日米韓反革命同盟の新たな強化・再編に能動的に乗り出そうとしているのである。

第二には、こうした政治・経済さらに軍事でも展望した日韓間の同盟関係を確立するため、過去から現在にわたる二国間問題の処理をはかることである。日帝が戦前おこなった朝鮮植民地支配の歴史を清算し、韓国人民と在日朝鮮・韓国人の反日感情を鎮めて、日韓ブルジョアジーの反革命的結束を固めることは彼らの最大の課題である。このために、①盧泰愚と天皇アキヒトの会談が予定され、かつての植民地支配への謝罪が演出され、また天皇訪韓がうちあげられ、そして、②韓国人被爆者に日本政府が救護処置を進める、③サハリンに強制連行された朝鮮・韓国人の自由往来と帰國に日本政府が努力する、④在日韓国人「三世」以降の法的地位が未確立な問題に決着をつける、ことなどが日韓間で協議されようとしている。とくに在日「三世」問題は、韓国政府にとってきわめて重要な課題として位置づけられており、韓国側は「日本人に準ずる地位を与えられたい」として、日帝に特別の譲歩を求めている。

第三には、朝鮮半島、アジアにおける反帝主義と社会主義勢力への解体攻撃を強化することである。東欧やソ連の事態をとらえて日韓支配階級が「社会主義の敗北」と「自由主義の勝利」をうたいあげ、反共攻勢を強めることは間接的に、朝鮮半島、アジアにおける反帝主義と社会主義勢力への解体攻撃を強化することである。東欧やソ連の事態をとらえて日韓支配階級が「社会主義の敗北」と「自由主義の勝利」をうたいあげ、反共攻勢を強めることは間接的に、朝鮮半島、アジアにおける反帝主義と社会主義勢力への解体攻撃を強化することである。

烽火

違ない。とくに共和国の孤立化・解体策動が強められ、韓国の国連単独加盟がもぐるまれることは確実である。

盧泰愚来日をつうじて狙われる以上のことは結局、アジア・太平洋地域における搾取と略奪のための反革命を、日本帝国主義を頂点にして韓国がこれに従属した形で共同して進めようとするものである。

このかん韓国階級闘争は、まったく新しい質と性格の発展段階に突入した。韓国資本主義の飛躍的な成長を根拠にして、ブルジョアジーとプロレタリアートの二大階級間の矛盾は急速に拡大し、ブルジョアジーとプロレタリアートのあいだの階級闘争が韓国社会の動向を決定する本質的な規定要因として登場してきた。かつての「独裁か民主主義か」が問われた時代はもはや完全に終わった。今年に入ってからの「保守合同」と韓国全労協の結成は、このことをいつそう鮮明にした。

本年一月二日、韓国のブルジョア三政党が「保守合同」をはかり、民正・民主・共和の各党が「民主自由党」へと一本化することとなつた。これについて、「日本の保守合同をまねたもの」「金泳三の裏切り。権力欲のあらわれ」などのさまざまな論評があるが、それらはまったく表層的な指摘である。またこれを米帝の介入の結果であるととらえることも不十分である。

今回の保守合同は、本質的には韓国ブルジョアジーがより強力なブルジョア政党を必要としたことから起きた事態にはかならない。米日に従属した後発の資本主義国である韓国は、ASEAN・中国・ソ連・東欧をめぐる日・米・歐州の帝国主義列強と熾烈な市場競争を進めなければならぬ時代にあって、「与小野大」といわれた不安定な政治状況を放置したままではこの競争に決定的に立ち遅れる。したがって国際市場の開拓を求めて激動する国際政治に乗り出すために、さらに激化する労働争議など人民のたたかいをおさえこみ国内の政治安定をはかるために、韓国ブルジョアジー自身が強力なブルジョア政党を求めたのである。

また同じ二二日に、「民主労働組合運動」の全国ナショナルセンター、全国労働組合協議会（全労協）がソウル近郊、水原市の成均館大学で六〇〇人の代表を集めて結成大会をたたいた。この韓国全労協は、御用労組＝韓国労総（一五〇万）と分岐した戦闘的で階級的な労働組合の全国組織であり、二〇数万人を組織して出発した。「われわれはまた、政権と少數財閥の抑圧と収奪を除去し、四千万国民の自由と幸福を実現するために、諸民主勢力と力強く連帶していくことのできる全国労働者の組織的隊伍が出帆したことを満天下に宣言する」「抑圧



合同した三党の総裁。右から金泳三、盧泰愚、金鍾泌（1月22日・ソウル）

## ■発展する階級闘争

このように韓国階級闘争は、ますます新しい質と性格の発展段階に突入した。韓国資本主義の飛躍的な成長を根拠にして、ブルジョアジーとプロレタリアートの二大階級間の矛盾は急速に拡大し、ブルジョアジーとプロレタリアートのあいだの階級闘争が韓国社会の動向を決定する本質的な規定要因として登場してきた。かつての「独裁か民主主義か」が問われた時代はもはや完全に終わった。今年に入ってからの「保守合同」と韓国全労協の結成は、このことをいつそう鮮明にした。

本年一月二日、韓国のブルジョア三政党が「保守合同」をはかり、民正・民主・共和の各党が「民主自由党」へと一本化することとなつた。これについて、「日本の保守合同をまねたもの」「金泳三の裏切り。権力欲のあらわれ」などのさまざまな論評があるが、それらはまったく表層的な指摘である。またこれを米帝の介入の結果であるととらえることも不十分である。

今回の保守合同は、本質的には韓国ブルジョアジーがより強力なブルジョア政党を必要としたことから起きた事態にはかならない。米日に従属した後発の資本主義国である韓国は、ASEAN・中国・ソ連・東欧をめぐる日・米・歐州の帝国主義列強と熾烈な市場競争を進めなければならぬ時代にあって、「与小野大」といわれた不安定な政治状況を放置したままではこの競争に決定的に立ち遅れる。したがって国際市場の開拓を求めて激動する国際政治に乗り出すために、さらに激化する労働争議など人民のたたかいをおさえこみ国内の政治安定をはかるために、韓国ブルジョアジー自身が強力なブルジョア政党を求めたのである。

また同じ二二日に、「民主労働組合運動」の全国ナショナルセンター、全国労働組合協議会（全労協）がソウル近郊、水原市の成均館大学で六〇〇人の代表を集めて結成大会をたたいた。この韓国全労協は、御用労組＝韓国労総（一五〇万）と分岐した戦闘的で階級的な労働組合の全国組織であり、二〇数万人を組織して出発した。「われわれはまた、政権と少數財閥の抑圧と収奪を除去し、四千万国民の自由と幸福を実現するために、諸民主勢力と力強く連帶していくことのできる全国労働者の組織的隊伍が出帆したことを満天下に宣言する」「抑圧

と屈辱の歲月、御用と非民主の時代を清算し、全労協の旗のもと、鋼鉄のように団結し、自由と平等の社会にむけて力強く進軍しよう」という創立宣言文は、まさに韓国の社会変革運動の結局、アジア・太平洋地域における搾取と略奪のための反革命を、日本帝国主義を頂点にして韓国がこれに従属した形で共同して進めようとするものである。

前面に労働者階級が登場し始めたことを示すものである。韓国全労協の結成は、韓国の労働者階級にとって、ブルジョアジーとその政権に対するたたかいを前進させ、結束を固めるうえで決定的な意義を持つものである。

全労協の結成より二日前の二〇日、盧泰愚大統領の主催で「産業平和早期定着と賃金安定対策会議」が開かれ、全労協を「階級闘争と労働解放理念のもと、悪性紛糾を主導する不法集団」と誹謗した。韓国ブルジョアジーは全労協結成に対し敵意をむきだしにした。全労協結成当日には戦警隊二万がソウルを封鎖し、会場を戦警隊と反共自警團＝白骨團が突入して約一〇〇人の労働者を連れ去った。初代委員長の段炳浩氏や指導的幹部には指名手配が出された。

このように韓国では、強固なブルジョア政権が本格的に確立されるとともに、その一方ではプロレタリアートのめざましい成長が開始されている。

ではこののような政治状況の経済的基礎となつている韓国資本主義とは、どのような特徴を有する資本主義なのだろうか。アジアNIESを代表する韓国資本主義は、米日帝から資本・技術・中間財を受け入れながら、労働者の無権利と強搾取、そしてすさまじい弾圧をテコにして驚異的な成長をとげてきた。低賃金労働力を利用した低価格を武器に韓国の工業製品は、アメリカ市場を中心にして輸出を伸ばしてきた。しかし急速な成長にもかかわらず韓国資本主義は、依然として日・米の従属下におかれている。またASEAN諸国より安い製品の追い上げや、「ウォン高・原料高・賃金高」という新しい状況によって韓国経済が頭打ちの状況に陥ってきてることも特徴的なことである。たとえば韓国の八九年の対日貿易は四〇億ドルの赤字となり（前年より一億ドル増加）、今年一月の韓国貿易収支は一〇億ドルを越える赤字となった。またこの

かん韓国が積極的に資本投資を進めてきたAS EANでは、日・米・欧州、そして他のアジアNIESからの投資も活発となつて競争が激化するなど、韓国資本主義は現在一つの大きな壁に立たされている。

アジーは、より一層の市場開拓と競争、またASEANや第三世界諸国への資本投資、そして死活的な戦略として位置づけられたものである。

国内労働者のしめつけを必死に進めなければならない状態にある。今回の盧泰愚来日に示された、日韓の共同したアジア・第三世界に対する略奪と反革命の計画もまた、韓国ブルジョアジーの死活的な戦略として位置づけられたものである。

## ■新しい連帯闘争を

韓国階級闘争は反独裁民主化闘争が積極的意義を持った時代を終え、ブルジョアジーとプロレタリアートの二大階級間のたたかいに、その基礎から転換し始めたととらえなければならない。そして韓国プロレタリアートは、自らを階級的に目覚めさせ結束を強めるために、階級的団結組織と革命的前衛党をせひともたたかいと打倒を正面から担い、日韓ブルジョアジーがの打倒を正面から担い、日韓ブルジョアジーが共同してたくらむアジー・第三世界人民への抑圧の強化とたたかい、アジア・第三世界の人民との国際主義的連帯闘争に決起していくことが問われ始めた。

韓国階級闘争はいま歴史的な飛躍に直面している。そしてわが国の日韓・日朝連帯闘争も、この韓国階級闘争の歴史的な飛躍に連帯するものでなければならない。日本プロレタリアート人民は、韓国全労協など成長する韓国プロレタリアートの階級的団結組織に連帯と援助を全力で組織せねばならない。同時に日本の先進的プロレタリアートと共産主義者は、現在の韓国の激しい路線論争のなかから革命的前衛党がマルクス・レーニン主義の原則に立脚して必ず生まれていくであろうことに連帯と援助を集中しなければならない。

盧泰愚来日阻止闘争は新しい日韓連帯運動の創出をかけてたたかわなければならない。日韓プロレタリアート人民がプロレタリア國際主義に立脚して日韓ブルジョアジーのアジー・第三世界に対する支配への乗り出しとたたかい、アジー・第三世界の反帝民族解放・社会主義革命のたたかいに連帯し、日米韓反革命同盟の再編・強化とたたかうことが求められている。そしてこうしたたたかいのただなかから、アジーにおける労働者人民の国際的統一戦線をつくりあげていくことが求められている。こうした課題を引き受け、盧泰愚来日阻止のたたかいに全力をあげよう。

## ニカラグア大統領選挙

# 敗北のうえ新たな 闘いに立つFSLN

まるで勝利集会と評された選挙後  
マナグアでFSLNが開いた集会  
(2月27日)

全世界が注視する中で行われたニカラグアの選挙は、サンディニスタの敗北という予想外の結果で終わった。今回の選挙は何を示したのか。この点についてわれわれの見解を以下明らかにしたい。

### 米帝の援助受けたUNOの勝利

中米ニカラグアで二月二五日、大統領選挙と国会議員選挙が行われた。大統領選の結果は、親米派の国民野党連合(UNO)のビオレッタ・チャモロ候補が得票率五五・一%、与党サンディニスタ民族解放戦線(FSLN)のダニエル・オルテガ候補が得票率四〇・八%となり、チャモロ候補が当選した。また国会議員選挙でもUNOが五四・五%、FSLNが四〇・七%で、これもUNOの勝利となった(以上開票率八二%のもの)。

国際帝国主義と、そのちょっとちん持ちのブルジョア・マスコミは、こぞって「サンディニスタ社会主義政権の敗北」を叫び、今回の選挙の結果を東欧やソ連の「民主化」の動きが中南米に波及したとして描き、社会主義に未来がないことを宣伝している。われわれは、こうした国際帝国主義の反共攻撃に断固とした反撃を組織しなければならない。

今回のニカラグア総選挙は、米帝国主義とコントラ、および中米の親米派政権が、内戦によるニカラグア人民の疲弊につけてここんで圧力をかけ、

革命の後退はなぜ生まれたのか

ニカラグア総選挙は、米帝さえ予想もしないサンディニスタの敗北となつた。そして今回の総選挙の勝利によって、米帝とコントラのニカラグアへの反革命介入を粉碎し、社会主義にむけたニカラグア革命の防衛と発展をかちとろうとしたFSLNは、いったんの後退を余儀なくされた。では今回の事態は、どのような根柢から生まれたものだらうか。

親米派のチャモロ陣営が予想をこえて勝利した背景には、七九年の二

本来は一月に行われる予定だったものをくり上げさせて行われたものである。FSLNは選挙のくり上げに応じるかわりにコントラの解体を他の中米諸国に確認させ、内戦終結による国内経済建設の強化をはかり、サンディニスタ民族解放戦線(FSLN)のダニエル・オルテガ候補が得票率四〇・八%となり、チャモロ候補が当選した。また国会議員選挙でもUNOが五四・五%、FSLNが四〇・七%で、これもUNOの勝利となつた(以上開票率八二%のもの)。

民族解放―社会主義革命をたたかい続けてきたFSLNは政権を手放さねばならなくなつた。米帝とコントラ、さらにニカラグアの国内ブルジョアジーはチャモロ政権を支援し、ニカラグア革命の挫折を狙い、FSLNとサンディニスタ人民軍や、労組・協同組合ほか大衆諸団体の解体に乗りだし始めようとしている。ニカラ

ガラグア人民の窮乏からの脱却の要

止することを全世界の人民に呼びかけ、ラテンアメリカ人民の反帝民族解放―社会主義革命を牽引してきたニカラグア革命とその前衛FSLNが、国際帝国主義とニカラグア国内ブルジョアジーの攻勢にさらされて

いる。全世界のプロレタリアート人民は、いまこそFSLNとニカラグア労農人民に国際的支援と援助を集めなければならない。

二月二七日、勝利したチャモロは、「UNOの勝利は飢えにノー」という

た労働者、徴兵制にノーといつたことはまちがいない。しかし一方に負っている」と語り、疲弊したニカラグア人民の窮乏からの脱却の要

求に応えたから選挙で勝利できたのだと主張した。たしかに長期にわたりFSLNからの人民の一定の離反とチャモロへの支持が生まれたことはまちがいない。しかし一方でFSLNは今回の選挙で得票率四〇%以上もの強固な支持を得たことも見ておかなければならぬ。

チャモロの国民野党連合UNOは、コントラ、国内ブルジョアジーから「左翼反対派」の共産党まで野党一四党派が反サンディニスタの一点で結びついた野台勢力であること、また八八年の世論調査によれば、政党支持に関してFSLNは支持率一八・三%で他の政党の三%以下を大きく離し、支持政党なし六〇%となつていてことなどからも、UNOの基盤はきわめて弱いものであり、またFSLNの支持基盤の強固さは変わらないといふことができる。

今度の選挙結果は、反帝民族解放―社会主義革命にむけたニカラグア革

けた。

こうした未曾有の経済危機をつくりだした原因と責任は、ニカラグア革命を包囲・封鎖し続けた米帝と米帝のLIC戦略にある。人口三五〇万人の中米の小国ニカラグアの人民は、革命後、米帝と国内ブルジョアジーとのさうに激しいたたかいに直面し続けてきたのである。

だがニカラグア革命には、これを十分に支える国際的なプロレタリアート人民の援助と支援が決定的に不足した。すなわち、一国社会主義路線たソ連・中国など社会主義大国は、ニカラグア革命に対する支援を放棄し、わずかにキューバなどが全力で支援したにすぎない。こうした国際共産主義運動の否定的事態、国際的なプロレタリアート人民によるニカラグア革命への支援の弱さ、これらのこととも米帝のLIC戦略とともに、ニカラグア人民の窮乏とFSLNから人民の一宗の離反を生みだしていった大きな原因であったといわねばならない。

二月二七日、勝利したチャモロは、「UNOの勝利は飢えにノー」といつた労働者、徴兵制にノーといつたことはまちがいない。しかし一方に負っている」と語り、疲弊したニカラグア人民の窮乏からの脱却の要求に応えたから選挙で勝利できたのだと主張した。たしかに長期にわたりFSLNからの人民の一定の離反とチャモロへの支持が生まれたことはまちがいない。しかし一方でFSLNは今回の選挙で得票率四〇%以上もの強固な支持を得たことも見ておかなければならぬ。

チャモロの国民野党連合UNOは、コントラ、国内ブルジョアジーから「左翼反対派」の共産党まで野党一四党派が反サンディニスタの一点で結びついた野台勢力であること、また八八年の世論調査によれば、政党支持に関してFSLNは支持率一八・三%で他の政党の三%以下を大きく離し、支持政党なし六〇%となつていてことなどからも、UNOの基盤はきわめて弱いものであり、またFSLNの支持基盤の強固さは変わらないといふことができる。

今度の選挙結果は、反帝民族解放―社会主義革命にむけたニカラグア革



**撤退日本企業と闘う韓国・三労組が来日**

# 広がつた支援の輪

昨年末、韓国にある日系企業三社の労組代表らが次々と日本を訪れた。コイルメーカー・スマダ電機の子会社「韓国スマダ」、カセットデッキメーカー・タナシン電機の子会社「韓国TND」、スキー用手袋メーカー・スワニー本社の子会社「亞細亞スワニー」の労組代表である。いずれも一九七〇年代に韓国に設立され、低賃金労働力を利用して急成長をとげた。しかし昨年一〇月、三社とも一方的に子会社の倒産を通告し、韓国から撤退しようとした。

一片の通告書で突然解雇に追いやりられた労働者たちは本社と交渉するためにはさまざまな努力をしたがまともな対応を得られず、そのため労組代表が本社との直接交渉をするために来日したのである。今回の事態は、日系企業で働く韓国労働者が本社との直接交渉のために来日した最初のケースである。操業再開には至らなかったものの、一方的な廃業通知に関しては謝罪させ、未払い賃金や当面の生活費の支給などをかちとることによって日本での三労組のたたかいいは一旦は終了した。しかし問題は終わったのではない。われわれは今回の問題をより深くとらえておく必要がある。なぜなら日系企業は、より安い労働力を求めて韓国から他のアジア諸国に移動しようしており、今後もこのようなことが頻発するだろうからである。

## 韓国から撤退する日本企業

一九七〇年一月、当時の大統領・朴は、輸出立国を目指して「輸出自由地域設置法」を制定、同法にもとづいて「輸出自由地域」を馬山に、七三年には裡里に設けた。地域内の外国企業には、原材料の輸入に関税がかからないだけでなく、五年間にわたって免税されるほか、事实上、労組を結成させない特例法など外国資本に有利な条件が提示された。このため、賃金の高騰などに悩む日本の中小企業などが安い労働力を求めて両地域に進出した。

労働集約型の中規模資本の日本企業は、低賃金地帯を求めてアジア・アフリカ諸国を渡り鳥のように移動している。会社維持のための積極的な対策もともなった。

い動きは波及し、昨年一〇月の時占里の二五社のうち三社に労組が結成された。日系企業にも労組がつくられ、賃上げ等をめぐって激しい闘争が展開され、これが免税特恵の切れどた日本企業の撤退を加速させる要因ともなった。

労働集約型の中規模資本の日本企業は、低賃金地帯を求めてアジア各国を渡り鳥のように移動している。会社維持のための積極的な対策もと

らずに利潤が少なくなれば一方的に廃業を通告し、より低賃金の労働力を得られる地域に工場を移転するなどをくり返している。韓国労働省の資料によると外国人投資企業の廃業・休業・人員削減は八八年には四社だったのが、八九年には三一社（廃業一三、休業三、人員削減一五）と八倍に増えている。この大半が日系企業であり、これによって八〇〇〇人以上が失業したとされる。

一方、中国に四つの工場を建てた。韓国に残ったのは亞細亞スワニーだけとなつた。亞細亞スワニーの労働者数は、二三九人で、そのうち八割にあたる一九四人が若い女性であり、一二九人が夜間学校に通っていた。スワニーはスキー用手袋のトップメーカーにまで急成長をとげたが、その陰には強制残業、徹夜、特別勤務に明け暮れた彼女たちの苦しい労働があつた。



スワニー本社と社長宅に抗議するスワニー労組代表と支援の労働者たち



# アパルトヘイトを告発する 「サラフィナの声」

であるのか、さらには南ア黒人がなぜたたかいに参加するのかが見えてくる。これらの作品は、一三年前歴史を再現するだけでなく、今の南アの状況を私たちに訴えている。ミュージカルは南アの黒人解放闘争にとって歴史的な転換点と言える

に広がつていつた。

ミュージカルは、ソウエト蜂起の中心になつたモリス・アイザクソン「なぜアフリカーンス語で学ばなければならぬのか?」と疑問を抱くと

# イトを告発する イナの声」

労組の「労組代表団を日本に送るにあたり、韓国で苛烈にたたかい抜く決意」という決議文は、この鬭争が単に操業再開を求めるだけでなく、労働者の誇りをとりもどしていくための鬭争であることを鮮やかに示し

## 日韓労働者の共同闘争を!

今回の問題は、アジア・第三世界への新植民地主義的収奪を強化せんとする日帝資本の一部が、これまでの主な投資先の一つであつた韓国から労働者に犠牲を集中する形で撤収せんとすることから発生したものである。日系企業の反労働的な偽装倒産・解雇措置に対し、韓國労働者はたたかいを開始した。昨年四月

には「外国資本不当撤収・集団解雇及び労組弾圧粉碎共同闘争委員会」(外労共闘委)がつくられ、外資導入法改正闘争、対日本大使館共同闘争などの共同闘争が展開されてきた。来日した三労組もこの外労共闘委に参加してたたかってきた。

また一月二三日、韓国において新たに結成された地域・業種別の全国

組織「全國労働組合協議会」（全勞協）も、争議労組をバックアップし「外國資本の撤退の際には労組の合意を得る」「偽装廃業を事前に防ぐため財務現況報告を義務づける」など外資導入法改正を訴えている。韓国政府や財界は、こうした全労協を「急進的な労働勢力」として徹底した弾圧を加えてきている。だが韓国の労働者たちは全労協結成をうけてより強固にたたかいを前進させるだろう。

▲27年ぶりに釈放されたマンデラ氏(本年2月11日)と南アを追放された歌手マケバと出演者(映画より)

するだろう。南ア情勢に注目しつづける必要がある。

# 全国学生に呼びかける

# 国際階級闘争の激動に切りこむ 国際主義学生運動の創建を

全国の学生諸君! 今日の学生運動は大きな歴史的低迷期のなかにある。変貌をとげつたる国際・国内階級闘争の今日の現状は、この低迷を突破する新たな革命的学生運動の再建を強力に要求している。九〇年代の革命的学生運動は、国際・国内階級闘争の歴史的転換がもたらす帝国主義本国内学生と学生運動への影響がいかなるものであるかを明確にし、新しい現実に立脚してプロレタリア国際主義派学生運動として再建されなければならない。九〇年代の革命的

学生運動は、激動する国際・国内階級闘争のなかからマルクス・レーニン主義を世界的規模で復権し、労働者階級に深く依拠した前衛党建設のたたかいと結合する学生共産主義者の手によってこそ再建しうるし、また再建されなければならない。われわれは全国のたたかう学生に対して、直面する一時代の要請に応える九〇年代の新たな革命的学生運動—プロレタリア国際主義派学生運動の創建という事業に共に立ち上がるなどを呼びかけるものである。

## 国際帝の新たな戦略と 国内階級闘争への反映

歴史は大きく動いている。昨年以来、ドラストイックに進行してきた社会主義諸国におけるスターリン主義支配の崩壊過程は、マルクス・レーニン主義の今日的復権へと向かうことなく、社会民主主義への公然たる移行を支配的すう勢として一旦は進行している。国際帝国主義はこそって社会主義の敗北を叫び、社会主義諸国を資本の全面的支配の下へと組み込むために全力をあげだした。国際帝国主義諸国の九〇年代共通戦略は、東欧を初めとするこれまでの社会主義諸国との全面的資本主義化と、一方でいわゆる第三世界革命闘争の解体を実現していくことにある。そしてこのなかで日本帝國主義は、国際帝国主義としての自己の支配とその反革命的役割を決定的に増大させていこうとしているのである。

第一に、日帝が他国の階級闘争・革命運動の直接の敵・打倒対象として本格的に登場しようとしていることである。日帝が国際帝國主義と

代とは、スターリン主義支配の崩壊過程の促進と第三世界革命闘争の解体という国際帝國主義諸国的新たな世界支配戦略を背景に、このなかで大きな位置を占めつたる日帝の国際帝國主義への転換と、それに伴った国内外にわたる階級闘争の条件が変化し続ける一時代のことである。それは、学生と学生運動にも大きな変化をもたらさざるをえないし、またすでにもたらしつつある。

日帝が国際帝國主義へと転換していく過程は八〇年代後半に入り急速に進行してきた。こことは詳しくはおわないが、日帝の国際帝國主義への転換という動向は、次の三つにおいてきわめて重要な事態を生み出している。

第一に、日帝が他国の階級闘争・革命運動の直接の敵・打倒対象として本格的に登場しようとしていることである。日帝が国際帝國主義と



米軍基地撤去を掲げたデモの出発集会。  
米国旗を焼きする学生たち(本年3月・フィリピン)

## 国際的階級流動を反映する新たな自然発生性

下層労働力としての外国人労働者の編入という事態を伴いながら、労働運動は上層労働者の排外主義的利益を代表する「新連合」の発足と戦後労働運動構造の最終的崩壊を引き起こした。そして、外国人労働者問題への態度に示されているように、排外主義か国際主義かがあらゆる社会領域で実生活をとおしてさえ自然発生的に問われていく時代に入りつつある。

第三に、日帝の国際帝国主義への飛躍と照応して、わが国における政治構造上の変化、および人民の政治参加をめぐる変動が始まつてゐることである。

それは、社会党の一層の右転落と排外主義党への純化を条件に、新連合発足と連動した野党再編、あるいは野党連合政権構想として進んでゐる。これは歐米に典型的な保守党と第二保守党による二大政党支配への再編過程の日本における本格的開始である。そしてこの一方で、決してこれらの二大政党制と体制内反対派＝日本共産党に收れんされることのない、帝国主義本国における諸民主主義運動が自然発生しつつある。これらは「みどりの党」的運動や、さまざま社会的・文化的・政治的運動として広範に

自然発生し続けていくであろう。

日帝本国において増大するこのような自然発生性の総体としての特徴は、自然成長するかぎり小ブル改良主義であり、反プロレタリア的な市民主義へと收れんされる傾向にある。それらは、労働者階級を組織された革命的階級へと形成するのでなく、一市民へと解体し、ブルジョア民主主義的・改良主義的政治運動へと固定化する。それらは台頭する排外主義と首尾一貫してたかいうものでは決してない。だが、このような帝国主義的市民運動は、今後構造的に生まれるであろう。そして次章で述べるように、学生内部における自然発生性も、放置するならば、その一部はこうした潮流に收れんされにく可能性を持つてることを決して見逃してはならない。だからこそ、九〇年代革命的学生運動は、日帝の国際帝国主義への転換を反映した学生と学生運動内部における自然発生性の変化をだれが組織するのか、そして、それをいかなる質で組織しなければならないか、このことに真剣に応えていくものでなければならぬのである。

これらの多くは、既成の学生運動とはまったく別個に生まれてきており、右は国民党系から「左」は「市民運動派」にいたるまでの運動が存在している。このような学生の自然発生性とその運動の一部である「国際交流運動」「国際連帯運動」が、今後本格的に台頭していくことは不可避である。

そしてその政治的傾向は、現在のところまつたくの自然発生的な小ブル自由主義・個人主義と人道主義にある。それは、これらの自然発生性は総体としては、既成の政党や単一の組織化であることの反映である。これらの自然発生する運動が、学生内部における階級的利害対立にまで転化されておらず、いまだまったく未分化であることを反映する。これらの自然発生性は、日帝の国際帝国主義への転換を反映した日本共産党に全面的に対立する單一の価値観や世界觀を首尾一貫して形成しえるものでもない。帝本国の新たな小ブルの市民主義・改良主義運動勢力へと容易に收れんされる可能性をもつし、またその発生基盤の一つでもある。

これらの再生産され続ける自然発生性の内部に階級的利害対立を鮮明にし、学生内部の政治的対立・党派的対立へと表現していかなければならぬ。

第一は、日帝の国際帝への転換が既存の学生運動内部にも反映しつつあり、かつ、これら諸勢力の政治的役割が一層鮮明になり、あるいは政治的な変化・純化が開始されていることである。

ファシズム学生運動（原理研や反戦学連など）は引き続き、全社会的に広範に台頭する帝国主義的排外主義の最も先鋭的右の政治的現れ（侵略反革命戦争の要求と民族主義）をあからさまに代表しつづける位置にある。

日本共産党系は、帝国主義本国の排外主義的「城内平和」要求を「反戦平和・非核」要求として組織しつづける位置にある。

彼らは、学生の教育条件の向上と将来の社会的位置の向上のための改良要求と結合した「反戦平和」要求を組織し、一定の影響力を持続させつづけるだろう。しかし、彼らの学生独自の国際連帯運動は不活発であり、この面では当面大きな影響力をもつことはできないし、変化する学生の自然発生性を糾合することもできない。

日本共産党系学生運動は、帝国主義本国内の排外主義的城内平和を防衛しようとする極めて犯罪的なものとして存在している。

では、学生と学生運動のなかで、一定の勢力を保持してきたわゆる急進民主主義派学生運動はどうか。

彼らは、急進民主主義政治を実力闘争をもつて推進してきたが、これからの一時代に民主主

# 国際的共同政治闘争を担う革命的学生運動を

義要求それ自身をいかに戦闘化させようとも、自然発生する排外主義とその下への労働者階級・学生の組織化の攻撃に打ち勝つことはできない。急進民主主義派学生運動におしなべて共通する彼らの致命的限界である一国主義と、国内政治反動に対する民主主義闘争の急進化という質によつては、資本の国際化を反映した学生の自然発生性を階級的に組織し、革命的学生運動の再建・プロレタリア国際主義派学生運動の創建を実現していくことはできない。

以上総括すれば、学生運動のなかにおける政治的分解は、直面する一時代の最も右のあらわれとしてのファシズム学生運動を対極としながら、日本共産党系学生運動、さらにこれからの中学生内部に自然発生する政治的に未分化な先の

全国の先進的学生諸君! われわれは、九〇年代学生運動を領導する新たな革命的学生運動・プロレタリア国際主義派学生運動の創建の事業に、すべての先進的学生が結集することを心からよびかけるものである。

直面する一時代、すなわち日帝の国際帝国主義への飛躍に照應した国内外にわたる階級闘争の条件の変化、学生と学生運動における自然発生性の変化が要求する新たな革命的学生運動の成否は、プロレタリア国際主義派学生運動を組織していくことかかっている。

それは、資本の国際化を反映しながら変化し続ける学生の自然発生性を糾合しつつ、その小ブル自由主義・人道主義を変革していく学生運動でなければならない。それは、学生の変化する自然発生性を帝国主義本国内の改良主義的・市民主義運動の国際連帯運動のもとへと固定化し收れんさせようとする潮流とたたかい、とりわけ、マルクス・レーニン主義の復権ではなく、その積極的放棄と解体を信条とするあらゆる潮流の影響力を一掃する学生運動でなければならぬ。

それは、日帝の侵略反革命戦争準備を要求するファシズム学生運動と正面からたたかい、他方で帝国主義的「城内平和」を要求する日本共产党系学生運動を根底から批判しきることをとおして、今日の学生を日帝の侵略反革命戦争準備との闘争へと組織し、フィリピンをはじめとする反帝民族解放・社会主義革命と実践的に連帶する学生運動でなければならない。

もちろん、国際主義一般はありえない。国際主義をかけた学生運動の必要性一般は先進的学生内部では言い尽くされている。われわれが言つところのそれは、今日の激動する国際階級



フィリピンのスエビック米海軍基地

人道的国際連帯として表現されていくあらたな流れとして進行するだろう。

また他方では、旧来からの急進民主主義学生運動と一部無党派学生運動がそれ自身の転換を実現するには至らない。いざれにしても、学生運動内部において諸政治勢力は、国際主義か排外主義か鮮明に問われづけ、ふるいにかけられていく。そして、国際主義をめぐる革命的実践総体が掛け合なしに問われていかざるをえない。

しかし、これらのいずれも、日帝の国際帝への飛躍に照應した学生と学生運動の自然発生性の変化を、革命的に変革・指導する質をもつことはできない。いざれにしても、学生運動内部において諸政治勢力は、国際主義か排外主義か鮮明に問われづけ、ふるいにかけられていく。

余儀なくされながら縮小再生産されづけるであろう。

運動と一部無党派学生運動がそれ自身の転換を実現するには至らない。いざれにしても、学生運動内部において諸政治勢力は、国際主義か排外主義か鮮明に問われづけ、ふるいにかけられていく。

余儀なくされながら縮小再生産されづけるであろう。

まず第一に、プロレタリア国際主義派の政治運動を学生内部に全力でつくりだしていかなければならぬ。それは、日帝の侵略反革命戦争出動阻止、他国の社会主义革命連帯を中心的スローガンとする政治闘争を要を作り出していかなければならない。同時に、日帝を中軸に形成されていくアジア太平洋レベルの反革命軍事同盟との闘争を、各国階級闘争と結合した反帝派学生運動の国際的な共同政治闘争として組織し、その中にわが国学生運動を結集させなければならない。

第二に、国際連帯運動・国際支援運動を推進する階級的労働運動と先進的労働者のたたかいと結合した実践を学生内部に広範に組織していかなければならない。わが国労働運動は新連合の発足と総評の解散によって、一旦は帝国主義的労働運動の支配下に入った。だが、連合内外を貫いて他国の労働者階級のたたかいへの階級的共感を自己のたたかいの生命力とする労働運動と学生の共同闘争をつくりだすことはきわめて重要である。それは、国際連帯・支援運動と、国際連帯を進める労働者政治闘争の領域においてとりわけ追求されなければならない。

第三に、他国の革命運動、とりわけ新植民地支配下の社会主義革命勢力への実践的で犠牲的な連帯と支援を学生運動の内部に組織していくことである。それは、国際連帯・支援運動と、内階級闘争の一翼を担う学生運動を実践的に組織しなければならないということにある。

それは、国際主義を抑圧民族の責任論や排外主義との闘争一般に解消するあらゆる傾向と異なり、一国社会主義路線とたたかう各革命勢力とその階級闘争と結合したところの、マルクス・レーニン主義派学生運動と反帝派学生運動の国際的共同闘争へと日本学生運動を結集させる歴史的・実践的たたかいを展望していくものでなければならない。

そのための先進的学生活動家の実践的任務は、そのための先進的学生活動家の実践的任務は、なにか。また、どのような実践をどうして国際主義プロレタリアートの側へと学生の階級形成を推進することができるのか。

第四に、あらゆる反マルクス主義・非マルクス主義的国際連帯との闘争と、中ソによって歪められたマルクス・レーニン主義と社会主義・共産主義の理論的・実践的復権へと学生を結集せしめる学習運動を組織していかなければならぬ。

第五に、プロレタリア国際主義派学生運動を創建するための学生内部における前衛的学生政治組織を建設し、ここに先進的学生を結集させなければならない。

九〇年代革命的学生運動の創建は、国際共産主義運動の激動期の中、スターリン主義に代わる党、プロレタリア国際主義の党、階級の党をめざす前衛党建設と結びついた学生共産主義者・先進的学生の手による独自の学生政治組織の建設を不可欠としている。そのことによってこそ、変化する学生の自然発生性を糾合・変革しながら九〇年代革命的学生運動の大衆的再建の条件を獲得できるのである。

全国の先進的学生諸君! 国際連帯・国際主義を単なる思想問題のレベルや立場一般以上にこえることのできなかつた旧来の学生運動を革命的に止揚し、われわれとともに、九〇年代革命的学生運動—プロレタリア国際主義派学生運動の歴史的創建へと共に進もう。